



NPO法人
新潟県山野草をたずねる会・植生研究会機関紙
第 34 号
会員数 107 名(12/1 現)
事務局
長岡市下条1406番地6
事務局長 孝
小日向 孝
TEL・FAX 23-1317
印刷 刷
(有)トヤマ写真製版所
TEL 32-3862

自然の謎とつきあう

―天敵―樹木・昆虫・小鳥の共同体

理事長 小日向 孝

(樹医博士・環境省・農水省環境カウンセラー
環境教育インストラクター・花と緑のアドバイザー)

天敵とは、ある生物に対して、食物連鎖のすぐ上位にあつて、その生物に死亡要因として働く生物のことをいいます。食物連鎖、つまり食う者と食われる者でつながつた生物間の結びつきで、直接『食う、食われる』関係にある生き物同志の『食う』側が『食われる』側の天敵です。『食物連鎖』も『天敵』も『猫がネズミを食べる』ような関係だけではないのです。天敵は、その攻撃の仕方によつて、捕食性天敵、寄生性天敵、天敵微生物の3つに分けられます。それぞれある生物を捕つて食べてしまふ者、寄生して殺してしまふ者、病気で殺してしまふ病原体を指します。人に寄生する回虫のように『死亡要因』にならないものは、天敵ではありません。哺乳類の病気で治療するものでは、その病原体もやはり天敵とは言いません。

大森林に害虫が発生して、緑の森がだんだんと赤茶色に変わり、ある木は枯木のように丸坊主になり、ある木は斜めに倒れ、しかも疾風のように、この害虫の被害が広がります。広大な面積を占め、同じ種類の樹木で成立している森林では、一方所で害虫の発生が始まると、たちまち全体に及んでしまいます。放つておけば、山火事のように森全体に被害が広がり、さらに飛び火して隣接の森林に及ぶことが予想されます。このような時は、被害を最小限にとどめる有効な手段として、飛行機による空からの薬剤散布の手段が行なわれてきました。森林は、もともと、森林を構成している樹木、

それを食べて生活している昆虫、その昆虫を餌として暮らしている小鳥の三者のバランスを中心として成り立っています。この三者の二つである昆虫が増え過ぎた場合に薬剤を撒くとどういふ結果になるのでしょうか。薬剤は昆虫に対する殺傷力を持ったものを選びますが昆虫を減らすには有効に働きます。しかし、昆虫は、小鳥にくらべれば、体がはるかに小さいから、薬剤の効果の及ばない小さな隙間に隠れることも可能です。また、材中や地中で、卵や蛹になっているものに対しては効果はありません。一方、その薬剤は小鳥に対しては害の少ないものを使用した場合も、昆虫のみに有効で、鳥には全く無害であるという薬剤は有り得ないので、少なくとも幼鳥等にはかなりの有害な影響を与えることが考えられます。同様に、やや衰弱して、虫に食われ始めた樹木にとつても、薬剤はその生活力を弱めます。何回かの薬剤散布の結果、生活力の旺盛な昆虫は、その一部が生き残り、しかもその虫は薬剤に対する抵抗力を身につけています。

小鳥は次第に衰弱して、やがてその森林を離れ他に避難します。そして樹木はますます生活力が衰え、虫に食われなくても死滅の方向をたどりま。最近、薬剤散布が、中止されているのは、このような因果関係が明らかになったからであります。樹木、昆虫、小鳥の三者が共存してこそ森林であり、自然に崩れたバランスは、必ず自然に回復できるのです。



通常総会

〈通常総会次第〉

※司会進行：角山 正博

一 開会の挨拶 理事長 小日向 孝

二 定数確認・正会員九十三名
(出席二十七名・委任六十二名 計八十九名)
定款二十八条

三 議長及び議事録署名人選任
(議長選出：定款二十七 出席正会員・署名人選任：定款三十一条)

四 議事

一号議案 平成三十一年度事業報告書
(含 かしのみ第三十三号)

二号議案 平成三十年年度活動計算書
平成三十年度貸借対照表

※監査報告：渡辺 薫監査

三号議案 平成三十一年度事業計画(案)

四号議案 平成三十一年度活動予算書(案)

五号議案 研修・助成申請・課題等

閉会の挨拶 渡辺ゆき子



早春の山野草をたずねる会と通常総会に参加して

渡邊 薫

平成三十一年四月七日、二十三名の仲間達と、寒暖の差が例年になく著しく変化する平成最後の春、覚張運転手の巧みなハンドルさばきで柏崎へとひた走る。

心配された天候も、参加者の熱気で途中から日も差す回復ぶり。

観察地は、柏崎市の大崎神社、宮川神社、そして昼食は会の拠点地「才津」、総会終了後は糠山である。

大崎神社では、理事長から『椿』について三種類の名、各々の特徴など、噛んで含めるように説明を受け、教えて頂いた。

宮川神社では、国指定の文化財、天然記念物「宮川神社社叢」で、見事なシロダモの群生、昼でも暗い程に多種多様な樹木が生い茂る様に圧倒される。とりわけ「天然記念物」に指定されているという「大ケヤキ」は、そのたたずまいに、美しさと荘厳さを感じ、言葉が出なかった。

幾星霜、雨の日も風の日も、大雪にも負けず、その地に根を張り、枝を広げ、ただ黙々と成長してきた木。どっしりと酸いも甘いも噛み分けて世相のあれこれに惑わされることなく構え、成長し続ける木。畏敬の念を持って眺め、頭を垂れた。かくありたしの願いを胸に秘めて。

春の野を歩き 山菜を食べる会に参加して

小林 賢一

五月十二日・日曜日、私にとつて令和になって初のイベントになりました。今年は、暖冬小雪で暖かい日が続いていたのに、この日出発の頃は、十四度と少し肌寒く感じました。目的地柿崎区尾神岳はバスで約一時間半。到着する頃には気温も上がり、過ごしやすい山歩きにもってこいの陽気になっていました。

山頂へバスを進める中、先生は藤の花や木の芽など見つけては採取し、料理方法や食べ方を教えて下さいました。ひたすら感心頻り、一般的に知られている、ゼンマイ・ワラビ・ふきのとう・木の芽は解っているものの、こんなにも食用植物を目の当たりにする事はないので、本当に勉強になりました。山菜には時期が遅いと思っていました。山頂近くには、残雪もあり、まだ少し春が残っていました。山菜採取後、昼食会場でもある名水百選にも選ばれている大出口泉水へと移動しました。昼食は豚汁に山菜のてんぷら、みなさん持ち寄りの漬物などで、テーブルはいっぱいになりました。腹も心も満たされました。

その後、最後の目的地十日町松代に移動。松代駅から、戌辰の役土墳とぶな林を散策しました。今日の会を振り返り、最近運動してないなあ〜と反省。そして、感動と満足な一日に感謝しました。

一緒に参加された方々ありがとうございました。



藤見の会



毎年5月3日に開かれるドングリハウスの藤見の会。美しい花姿に心とみます。まずは一献。

春の野を歩き 山菜を食べる会に参加して

高橋 雅美

小雪の冬明けに反し、なごり雪が続く遅い春に、芽吹く時が来ないまま一気に訪れた春、尾神岳の山は緑濃く新緑を迎えていました。

バスの到着を待つや否や、高らかな笑い声とお喋りが、三々五々と山に散行く。いつも口癖のように言っていた「膝や腰が痛い」はどこに行っただのか、シニアパワー全開！

昼食用の露のとうや、ウドの収穫は少なかつたものの、山野草の研修には40種余りの野草を採取し、学びの時を深めました。植物と名前が一致せず、何度聞いても覚えられない私は、小日向先生の後を追いついて行きました。

水を得た魚の如く、飛び廻る小日向先生の行動力と知識に今更ながら感銘を受け、尊敬の念が絶えません。お天気とはいえ、春霞で遠方の景色には恵まれなかったのですが、野外で食べる昼食の天ぷらと豚汁は最高、お酒もちよっぴり進みました。

お土産用の山筍や露、蕨とそれぞれに収穫はあったようで、バスの中は満足の笑顔と、山の香りでいっぱいでした。午後は松代を散策し、十日町での解散式。怪我もなく、無事楽しい一日を過ごす事が出来ました事に感謝致します。

何度となく同じコースを訪ねても、自然は姿形を変え、私達を呼び、色んな顔を見せてくれます。そしてその度に新しい発見があり、学びがあります。

これから増々温暖化が進み、自然環境も変わり、植生も変わる事でしょう。自然の恩を受け、共存していかねばならない私達は、先生を始めとし、三十八年の長期に渡り学んで来られた諸先輩方の研修成果を後世に引き継ぎ、自然の大切さを伝授していく必要があるのではないかと感じました。

環境保全といのちと心を育む環境教育

蒼柴の森植樹・ ドングリハウスでの 育樹活動に参加して

日本精機株式会社 小川 貴浩

六月二日(日)に開催されたドングリハウスの育樹活動に参加させて頂きました。

何度か参加させて頂いておりますが、毎度違う作業を任せて頂き、新鮮な気持ちになります。

今回、私は苗木のポット入替えや腐葉土等を混ぜ、ポットに詰める土づくりをいたしました。

「育樹」とは話が違いますが、作業中に二十センチほどの大きなミミズと出会い、「ああ、生物の多様性に触れているな」としみじみ感じておりました。

毎度のことではありますが、会員の皆様の草花に関する知識や情報の多さに感心するばかりです。

最後になりますが、これからも活動を盛り上げていけるよう微力ながら協力させていただきたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。



ドングリハウス育樹活動



蒼柴の森植樹にて

学びの旅 長野・群馬県

白根山・上州武尊温泉方面エコツアー

1日目 7月21日(日)

長岡駅東口集合—北陸道—道の駅やまのうち—
(越後カンコー横)

芳ヶ平—野反湖—ロッジたかやま 泊
(昼食・散策) (入浴・交流懇親会)

2日目 7月22日(月)

朝 食—宿舎出発—武尊自然休養林—
(昼食・散策) 赤城山 覚満淵—
(散策)

谷川岳SA解散式—長岡駅東口—解 散



学びの旅

実り多い夏合宿



渡辺 ゆき子

恒例の、御神酒でカンパニーのお陰で心配した雨もたいした事なく、快適な二日間を過ごさせて頂きました。

初日の横手山展望台からの眺めは広大で、普段目にする事のできない風景に歓声が上がりました。日本一高所の国道を通って野反湖へとバスは走ります。ニッコウキスゲやイブキトラノオと一緒に昼食。何て素敵な時間でしょう。食後の散策では、ヤマホテルブクロ・ミヤマウツボグサ等平地のものとは一味違う花々に目を細めます。茎や花をさわると粘りがあるネバリノギランも初めて知りました。花の宝庫です。

ちよっと迷いましたが、無事今夜のお宿に到着。外見より中身がしっかりしている(私の感想) ロッジたかやまは温泉は天然、料理も良い。豆から育てた手作り味噌のお汁はとてもおいしかったです。カラオケが始まり、和気あいあいと懇親会の時間は流れ、長岡甚句でお開きとなりました。心地良い疲れと共にぐっすり眠りにつきました。

次日の観察地品ほたか牧場の自然休養林は素晴らしかったです。



森の主シラカバ・ダケカンバ・ブナの大木が所々ドッシリそびえ立つ姿に心ふるえる思いがしました。ブナの原生林は見事!!小さな若木が育っています。今まで見た事のない花たちにも出会えました。ミズバショウの小型のようなヒメカイウ。キソチドリ・ジカバチソウ・アリドオシラン等々。またいつか訪れたいという思いが強く残りました。

最後の訪問地は赤城山の麓に佇む覚満淵。霧がかかっていて幽玄の世界。みんなで畔の草々を観察しながら歩きました。コメツガが大きく枝を広げています。シラビンソとの見分け方を仲間の人から教えてもらいました。先生からはミズナラとミヤマナラの違いやめずらしいヤマドリゼンマイ等いろんな話を聞かせていただきました。

いろいろな木や草花に出会え、とても収穫の多い合宿でした。日本には人の心を癒してくれる大切な森や林がたくさん残っている幸せを実感しました。時間をかけて下見をしたり手配をして下さった方々にお礼申し上げます。



ヒメカイウ



ウスユキソウ

ながあが市民活動フェスタ



9月7日、アオーレ長岡にて開催。パネルでの会の活動紹介や、苗木の展示・即売、薬用茶の試飲などを行ないました。



コンニャクづくり体験学習

荒川恵美子

十一月九日、ドングリハウスに十数名が集い活動。男性軍は冬囲い作業に精を出す。女性軍はコンニャク作りに奮闘。

コンニャク芋は、両手で抱えても、有り余る無骨な形態だ。腕まくりをし、「ウーン、ドッコイショ!」ザツクリ包丁を入れ快感。

ミキサーでトロトロにして、鍋でグツグツ煮る。女の細腕で気合を入れ、練って、練っていくと固まっていく。

バットに詰めて冷まし、完成を心待ちにする。一生懸命に作ったが、水の分量ミスなのか、見た目不細工、しかし、後日「おでん」の具になり、おいしく腹の中に納まったのです。

秋晴れのぬくもりに包まれて、冬囲いは順調に片付きました。

十日は歴史博物館向側の用地にて、背丈二メートル以上にも茂っているカヤを、草刈機の大きな力と鎌の小さな力の共同作業で、見通しの良い大広場へと変身させる事が出来た。大汗を流しながら、お疲れさまでした。来年からは開発された地に、木が植えられて、良い環境に整備されていくようです。

お昼は、頂戴した「焼芋」でほっこりとなり、芋談義で笑いに包まれました。



にいがた緑の百年物語 緑の募金森づくり事業

千年の森

—関原糠山自然復元植樹—
しんきんの森・学びの森育樹

みんなで作るふるさとの森



小日向理事長

★日時／令和元年9月28日(土) 9時30分開会
★場所／県立歴史博物館前・糠山
(長岡市関原町1丁目2378番地)

〔日程と次第〕 総合司会 副理事長 角山 正博

1 開会式 9:30

(1) 開会

(2) 開会の挨拶 理事長 小日向 孝

(3) 激励と挨拶

① 長岡信用金庫

専務理事 佐藤 光一様

② 長岡市議会議員

③ 長岡市議会議員

⑤ 長岡市農林水産部 農林整備課 林業係

主査 岩田 直樹様

(4) 育樹説明

① 除草・下刈り

② 補植

③ 倒木養生

④ 土壌改良

2 育樹活動 10:00

3 青空シンポジウム 11:15

(い)のちの森づくりや緑への思いと
ふるさとの自然を語る

4 昼食・豚汁会 11:45

5 閉会式 12:45

(1) 閉会の挨拶 副理事長 浅野 洋子

(2) 諸連絡

6 会場周辺の自然観察研修 13:00

7 閉会 14:00



長岡信用金庫専務理事 佐藤光一様

10年目の「しんきんの森」 育樹会に参加して

山田 徹

時が経つのは早いもので、入庫6年目、「しんきんの森」育樹会参加も今年で6回目の参加となりました。

季節の変わり目の時期ということもあり、開会式時に少し雨が降り始めた際には心配しましたが、何とか本降りになることなく、育樹会を終えることが出来ました。

「しんきんの森」は今年で10年目を迎えた訳ですが、ここ2・3年で目視でわかる程、樹木も高く成長し、より緑も深くなつたとともに作業工程も変わり、今年は主に下草刈りとおが屑散布に汗を流しました。森に生息する生き物にも変化がある様で、一昨年は蜂に悩まされましたが、今年は空に多くのトンボが印象的で、秋の訪れを感じさせてくれました。来年度以降は爬虫類や小動物の出現にも注目していきたいと思っています。

まだまだ人の手のかかる「しんきんの森」ですが、来年は10周年を迎える節目の年です。晴天を祈るとともに、来年はどんな顔を見せてくれるのか期待したいと思います。

最後に小日向先生をはじめ、山野草をたずねる会の皆様、スタッフの皆様、事前準備等いつもありがとうございます。来年もよろしくお願ひ致します。

初めて「しんきんの森」 育樹会に参加をして

原 いぶき

今年の四月に長岡信用金庫に入庫し、初めて「しんきんの森」育樹会に参加しました。当日は、あいにく途中から雨が降り、不安定な天候の中での育樹活動となりました。

育樹の会のみなさんと山にて草抜きなどの清掃を行いました。普段から草抜きや緑いっぴいの自然の中で作業することがなかなかないため、とても有意義な時間を過ごすことができました。

創業一〇〇周年を記念して始まった育樹活動も今年で十年目を迎えます。先輩方から、何もない場所から始まった森づくりと聞きました。先輩方やボランティアのみなさんの地道な努力のおかげで、立派な森へと成長したのだと、活動を通して感じる事ができました。

今回活動に参加をして、私は、「しんきんの森」のようにな、一つ一つ仕事を身に付け、発揮できるように努力をしていきたいです。そして、生まれ育った地元長岡や人々のお役に立てるような職員を目指したいと思います。

最後になりますが、貴重な体験をさせていただきました。この活動を主催してくださっている皆様、ご協力していただいた全ての方々に感謝申し上げます。



千年の森

—いのちの森再生八方台育樹植樹—
—自然との共生を学ぶ環境教育の実践—

みんなでつくるふるさとの森

★日時／令和元年10月27日(日) 9時30分開会
★場所／八方台休暇センター跡地
(長岡市成願寺2073番地)

〈日程と次第〉

総合司会 副理事長 角山 正博

1 開会式 9:30

(1) 開会 理事長 小日向 孝

(2) 開会の挨拶・育樹説明 理事 小日向 孝

(3) 激励と挨拶

① 長岡市長代理 長岡市観光・事業課長 佐山 靖和様

② 長岡市議会議員 関 貴志様

③ 長岡市議会議員 高野 正義様

④ (公社)長岡法人会 事務局長 駒野 一隆様

⑤ 東北電力長岡電力センター所長 星 昌史様

(4) 激励と挨拶者以外の来賓紹介

① (公社)長岡法人会 事務局 古見真美子様

② 長岡市観光・交流部 事業課 永井 瑞樹様

2 育樹 10:00

3 全体研修 11:35

いのちの森の再生 ふるさとの森づくり

—八方台育樹植樹の目的と経過—

〈いのちの森づくりや緑への思いとふるさとの自然を語る〉

※激励—開会式での挨拶者以外の来賓

4 昼食・豚汁会 12:20

余 興 ハーモニカ独奏 桜井 繁様

5 自然との共生を学ぶ 13:15

2グループ編成 ※グループ別研修 15:15

6 閉会式 副理事長 浅野 洋子

(1) 閉会の挨拶

(2) 諸連絡 15:20

7 閉会 15:20



八方台育樹・植樹に参加して

東北電力(株) 長岡電力センター

近田 寛幸

私は初めて「いのちの森再生 八方台育樹・植樹」へ参加しました。当社は平成十四年のスタート当初から毎年参加させていたでいており、当日は長岡市内にある3つの事業所の社員が植樹等の作業を行いました。作業直前まで雨が降る天候でしたが、植樹が始まる頃には雨も上がり、肌寒い中での作業となったものの多くの方が参加され、木の苗を植えることができました。自然の中に入って、自然を身近に感じる事ができ、普段はあまり意識することのない樹木と接する、とても良い経験をする事ができました。

紅葉がとても綺麗で、様々な木々の色を間近で見ることにより、素敵な自然がたくさんあることを感じるとともに、この自然をこれからも大切に守っていかなければいけないと思います。

当社は、創立以来「地域社会との共栄」を経営理念に掲げ、近年では「より、そう、ちから」というスローガンのもと、様々な地域活動に協力させていただいていることから、今後とも一緒に活動させていただきたいと思っております。

最後になりますが、この活動を主催してくださったスタッフの皆様、当日一緒に活動した木々が立派に成長し、自然豊かな森として再生していくことを願っております。

八方台育樹・植樹に参加して ～その考え方・受け止め方～

櫻井 繁

台風十九号の影響で当初予定の十月十三日から二十七日に変更になった八方台植樹・育樹作業は、紅葉を楽しみ、お昼に振る舞われるとん汁が美味しくて、お礼に下手なハーモニカを演奏して得意になっていた。そんな気持ちで毎年参加していたのが私の正直な受け止め方でしたが、今年は一味変わっていました。

開会式は急ごしらえのテントの中で行われました。(その努力に感謝)雨模様の天気だったこともあって、参加者もいつもの年より少なかったようです。天気模様に見る大自然の現象に深い畏敬の念をあらためて抱きました。

開会式での理事長挨拶は、歳に似合わず情熱に燃えた内容で、協賛してくださった各社・各団体様へのお礼、参加者各位に対してのお礼などを述べられ、「自然環境と命と心を育み、培い、自然と共に生成発展してゆく人間の心」を理想として行く情熱的な講演でした。

来賓の激励等一巡のあと、解散して除草・補植・堆肥入れの育樹作業で一時間ほど良い汗を流し、広場にブルーシートを敷き、楽しい昼食になりました。

第二部は、「自然との共生を学ぶ」というテーマで、二つのグループに分かれて、実地研修を受けました。

例えば、谷うつぎの木を見たときは葉っぱのつき方と枝を見て谷うつぎと分かるが、葉っぱ一枚だけを見て、「これなー」と問われると分からない。楢の葉っぱを一枚見せられて「これなー」と聞かれた時は、毎年のように苗を育てていたので楢だとは分かるが、自分が育てている苗とは種類が違うので、しばらく考えてやっと楢と答えられた。このほかに「もみじ」くらいは何とか分かるが、少なくとも一〇〇種類以上の木の種類や名前などはさっぱり分かりません。

「ああ私の知識や見方、考え方は、こんなに浅かったか」と、がっかりしました。

でも視点を变えて考えれば、「みどりは美しい。紅葉すればまた美しい」と、幸せな秋の一日でした。感謝。



ハーモニカ演奏

環境教育の実践：全体研修

いのちの森の再生 ～ふるさとの森づくりの実際を学ぶ～

- 印象深かったこと…晴天に恵まれ、意欲的に取り組んでいることに感動した。
- 学んだこと…植物の集団は競争・共存・我慢・住み分け等のルールの中で成立している。いのちの森づくりは、表層土の復元・潜在自然植生の構成種を用いて、群落システムにしたがって、市民みんなで協力していくことが大切だということ学んだ。

環境教育の実践：グループテーマ

1グループ：八方台の森の恵み～学びの森周辺は八百屋さん～

- 印象深かったこと…子供たちが喜んで自然に親しんで行動できた。
- 学んだこと…サンプル(コマユミ・コナラ・タノウツギ等)の写真と比較しながら、植物を観察し採集することによって自然観察の目を養うことができた。



草木の鑑定

2グループ：八方台の森の恵み～紅葉は葉脈の美と越冬の態(冬芽)～

- 学んだこと…●紅葉について：黄色になるもの(アブラチャン・オオバクロモジ等)、赤色になるもの(ナツハゼ・コマユミ等)、茶褐色になるもの(コナラ・ウロミズザクラ等)を観察できた。●冬芽について：多数の鱗片葉に包まれているもの(サクラ等)、1枚の大きな鱗片葉に包まれているもの(トチノキ等)、綿毛を持った鱗片葉に包まれているもの(コブシ等)いろいろな姿を観察できた。●葉脈について：植物の種類によっていろいろな葉脈があり、その美しさを知った。



葉脈写し

蘇ったふるさとの森



佐川 通

―森と夢のある学校―

「ちゅうがっこうへいって、マツバポックリをひろってきたい」と保育所の幼児たち。薬になる樹を調べてくれる薬屋さん。「いいものを作りましたね」と市民の方。南の森の生長にわくわくしている生徒たち。

平成7年、校舎周辺整備事業として、十日町南中学校の中庭にふるさとの森を植えたところ、学校に目を向け足を運ぶ人が多くなった。森は200年以上も生きる優れた知恵をもっている。これからは自然と共に生しながらどう生きるかが大きな課題である。私たちは、21世紀に生きる子どもたちに3つの願いを立て、記念碑にメッセージとして刻んだ。

未来をみつめ

森を育て 森に学び 森と共に生きよう

森を育てるとは、自然と共生できる自立の心を育むことである。それには、子どもの時から五感を開く活動が大事である。

森に学ぶとは、自然の多様性を学ぶことである。いろいろな植物が競争しあい、共存しあって生長を遂げていく。あるときは我慢しながら、ときにはすみ分けながら、自然の秩序の中でたくましく生きていく。

昔から人は自然のいのちを活かしながら産業、文化、歴史を築き、また、土に帰してきた。農耕の合間に子どもに語られる昔話には、この世の困難を乗り越える自立の知恵が含まれていた。



南の森

―ふるさとの森づくり―

南の森をつくるにあたり、植生学を専門とする樹医博士・環境教育インストラクター小日向孝氏に調査・設計・指導を依頼した。まず南中学校の半径3km圏に、現に生息する植生と、かつて生息していたであろう潜在自然植生についての生態学的、植物社会学的な現地調査を行った。それによってこの土地に対応した『ほんものの森』について考え、固有の『ふるさとの森』としてつくりあげた。

実際には、現存しているブナ、ヤマボウシ、アズキナシ等のヒメアオキープナ群集と、隣り合うヤマトアオダモコーナラ群集、マルバマンサクブナ群集の構成種の中から約100種選んだ。樹種ごとに数本から十数本を選んで750㎡の用地に約800本を植栽した。

また、ここで最も大切なことは土壌である。土壌は植物の生活を左右する微生物の充満している表層土(30cm)が母体なのである。この大切な表層土をマウンド形成とともに腐葉土1㎡あたり、40kgを施した。

この過程を通して、森の自然の秩序をつくり上げていくすばらしさを実感できる。南の森の体験は地域社会を考えるとともに、人間が森と共生・共栄していくことの重要性やいのちのつながりの認識を深めていく。また、地球全体をも視野にいたれたグローバルな立場で考え行動できる人に育っていくであろう。

山野歩きは健康長寿の礎



山下 三芳

広場に着くと砂地に動物の足跡が直線上に複数続いている。鹿だと思った。周りの人は猪という。確かに爪の形は鹿ではない。我々は動物の世界に侵入したのだ。注意!

足元に気を付けてきのこを探すが手に触れるのは落葉。ツルに足を捕られてスッテンコロリ。時々カン高い「ピッピ」の音がする。熊よけと仲間の居所を知らせるため。きのこは見つからない。昨年は「ムキタケ」を木の途上でとったことを思い出し、木の上方を見る。また、「ムラサキシメジ」の群落を見つけたことを思い出して、樅の周辺を探す。無し。倒木に目をやると「ナメコ」が点々。慎重に採る。これが唯一の収穫。

広場に戻り昼食。よそのお母様方が作ってくれた豚汁をいただく。うまい。至福の時、お母様方に感謝。

きのこの鑑定。小日向先生が毒タケ、食タケを分け、名前を記していく。先生の豊富な知識と経験に驚く。私は実物と名前を照合し、覚えようとする。

秋の一日、火のような紅葉、カナリヤ色の黄、そして風の音。山野を歩くと心が静かになる。年を重ねると木々の姿、森の植物ひとつひとつ優しさと美しさを感じる。

企画実行された人達に感謝し、健康を維持して、来年も参加したいと思う。

〈採取したキノコ〉

カワラタケ	クギタケ
スギエダタケ	アマタケ
ベニヤマタケ	スッポンタケ
ムキタケ	ウスタケ
シロナメツムタケ	フウセンタケ
チャナメツムタケ	ホコリダケ
クリタケ	ゴムタケ
ナメコ	サルノコシカケの仲間
アシグロ	ニガクリタケ(毒)
オシロイタケ	シロキツネノチャブクロ(毒)
シロキクラゲ	モエギタケ(毒)



平成31年・令和元年度活動報告

特定非営利活動法人 (NPO法人)
新潟県山野草をたずねる会・植生研究会

★テーマ 植物の生きざまに学ぶ

- ◎足元の自然環境に学ぶーエコロジカルとビオトープ自然観の確立
・植生生態学的な自然の理解と認識を深める自然観察・調査・視察及び研修活動
- ◎本物の緑環境の保護保全回復活動を通していのちと心を育むー〈生かし・育て・植える〉
・潜在自然植生構成種の実生育成活動(ドングリ育苗)ー10万本育成を目指す
・250年のいのちと心を植えるふるさとの森(いのちの森)再生活動(環境の再生と自然との共生するまちづくり)
- ◎自然に親しみ健康で人間性豊かな潤いのある生活の追求
・森や自然の恵みと心の癒しの体験と健康の維持増進する活動 ・会員の親和向上を図る活動
- ◎関係団体との協力連携、支援、交流活動と協力団体・企業(東北電力・長岡法人会・北越銀行・環境開発・長岡信金・日本精機)
- ◎広報・研修活動ー機関紙(かしのみ)等の発行・調査・講演会等の開催
- ◎理念の具現と特定非営利活動に関する事業の継続性、信用信頼性、資金確保と深化充実
・より良い社会の構築のための環境づくりといのちと心を育む社会貢献活動ー生きがい活動ー

1 環境教育の推進に関する事業

- (1) 早春の山野草をたずねる会兼通常総会 ★レンタカー使用
4月7日(日)93名(参加27名、委任62名) 西山・宮川方面
- (2) 藤見の会
5月3日(金)18名 才津ドングリハウス管理兼
- (3) 春の野を歩き山菜を食べる会 ★レンタカー使用
5月12日(日)22名 尾神岳方面
- (4) 合宿研修兼観察会(エコツアー) ★レンタカー使用
7月21日(日)~22日(月)24名 白根山・上州武尊温泉方面 長野・群馬県
- (5) 秋の野に学ぶ(キノコの識別・観察研修) ★レンタカー使用
11月3日(日)26名 津南方面
- (6) 環境保全といのちと心の教育の推進事業ー自然との共生を学ぶ環境教育の実践
 - ① 森づくりに学ぶ自然との共生ーふるさとの自然に学ぶ体験活動
生やし・育てる活動ードングリハウスー定例活動日ー
 - ② 環境教育実践研修



ほたか牧場の主 ブナの大木

- ・いのちの森再生ー蒼柴の森育樹:7月27日(土)20名
- ・八方台育樹植樹:8月24日(土)14名 10月26日(土)13名 10月27日(日)49名
- 森づくりに学ぶ自然との共生(2グループ編成:八方台の森の恵み・人と森を守るキノコ)
- ・糠山自然復元植樹育樹ー信金の森/学びの森育樹:9月21日(土)9名 9月27日(金)14名 9月28日(土)199名
- ※(公社)にいかた緑の百年物語緑化推進委員会

2 自然環境保全及び緑化推進・地球温暖化防止に関する事業

- (1) みどりを育てる会ー潜在自然植生が成育する本物の緑環境のまちづくり『ふるさとの木によるふるさとの森』ー
『いのちと心』を植えるいのちの森(育苗・育樹・植樹)
※ドングリハウス管理定例日とし自然観察研修及び環境教育活動を兼ねる
4月6日(土)9名 15日(月)7名 5月3日(金)18名 18日(土)11名
6月2日(日)11名 15日(土)7名 7月7日(日)6名 8日(月)4名
8月4日(日)8名 9月1日(日)8名 6日(金)4名 8日(日)10名 10月6日(日)9名
11月9日(土)14名 10日(日)14名(冬囲い・コンニャク作り体験)イチジクの囲い、フジ剪定等

(2) いのちの森再生=ふるさとの森再生

- ① 蒼柴の森育樹 7月27日(土)20名ー悠久山公園・蒼柴神社叢林
- ② 千年の森ーみんなで作るふるさとの森づくり
ア 八方台育樹植樹 10月26日(土)13名 10月27日(日)49名
※市民運動・協力ー長岡市(観光課)
イ 里山糠山自然復元育樹植樹ーしんきんの森・学びの森育樹
9月21日(土)9名 27日(金)14名 28日(土)199名



競争・共存・我慢・すみわけ
 ・表層土の復元 ・潜在自然植生構成種
 ・群落システムに従う ・みんなで作る

3 生活環境の保全と改善に関する事業

- ① 自然の恵み体験活動:食用薬用健康茶、薬酒、果実酒、味噌造り、コンニャク造り
・無農薬健康植物の栽培体験・ドングリハウス活動と各事業の中で行う
- ② 学び合う会 12月8日(日) 会場:市内東泉閣(30名)
研修講演・忘年お楽しみ会・各種成果の発表

4 付帯する一切の事業 ー関係団体との協働活動含む

- ① イオン 黄色いレシートキャンペーンー広報PR活動 ※毎月11日
- ② 市民活動フェスタ:展示/フリーマーケット 9月7日(土)16名
- ③ 献血友の会(献血と協力)及び街頭募金活動
4月17日(水)2名 4月18日(木)2名 7月24日(水)2名 9月26日(木)2名
- ④ 機関紙発行・第34号 12月8日(日):活動のあしあと、感想など

編集後記

台風19号の為、八方台育樹・植樹は開催日を変更することになりましたが、その他の事業は予定通り無事終了することができました。皆様のご協力に深く感謝致します。また、ご多用の中、原稿をお寄せ下さった方々に重ねてお礼申し上げます。来る年も素晴らしい年でありますように。
角山・浅野・渡辺(ゆ)